

## 名古屋幼稚園大會に行く

よ  
し  
こ

動搖<sup>うごき</sup>止り、はたと眼さめぬ午前二時驛夫の聲を近々ときき(寢臺車)

千人の心一つに進みゆく意氣ほこらしや幼稚園大會

名古屋<sup>なごや</sup>市長の議長ぶりやあざやけし千人の意氣にひたとあひたる

その人と相識らねども會毎に親しき瞳そここゝに見る

公會堂廊にホールに幼稚園の小集團のつらなり續けり(休憩時)

師と博士と保育道<sup>ほいくの</sup>のこと語り給ふ舞臺見る目のうつろなりしわれ(餘興場)

### 旅宿にて

升半(茶の舗)に電話をかくる女性<sup>ひよこ</sup>の聲優婉なりとききほけてゐし(この地の言葉耳に柔かなり)

つくばひにしづくする音を支那忠のこの朝にしてしみじみと聞く

つくばひのかたへ一もと山茶花は白き花なり後にして知る

人を待ちて旅宿<sup>りやど</sup>にひとりとなりし時心漸く身にかへり來ぬ(朝より多くを人にあひたれば)

廊にきく人のけはひにうたゝねの夢よりさめて秋の夜と知る

### 夜の名古屋

この市街誓文拂の赤き旗もの珍らし 店々を見る

子オンサインはいまだ一つなり中京の夜街をこの舊友とゆく  
佛像の奈良へひとりの旅すると云ひたる友と夜の驛に別る

### 幼稚園にて

ロシヤ迄行くど云ひし子積木もて小砂利が上をひた走り行く  
くづれ又くづれ重ねて完成す午後の砂場に積木の鐵橋

### 折に

人交はり淡きがよしと知りつゝもそれとは心裏表うらはらを行く